

第1章 調査概要

1-1 調査名

- 東北北海道の地方空港と観光地を結ぶ公共交通の利便性向上策に関する調査

1-2 調査目的

- 本調査は、東北北海道の地方空港から観光地・アクティビティ拠点へ至る2次交通の利便性向上が道内の周遊行動へ与える影響及び既存公共交通の利用促進に資する可能性を検証し、その成果を踏まえて、各空港における持続可能な2次交通整備のあり方を提示することを目的とする。
- なお、目的達成に向け、現状把握/課題抽出/先進事例の把握/利便性向上策の検討といった段階的・論理的プロセスを探り、主にとち帯広空港・女満別空港（両空港と関係性の強い旭川空港を含む）を対象に、旅行者アンケート調査・関係者ヒアリング及び人流データ等のエビデンスに基づき、実装可能な施策パッケージの取りまとめを行う。

1-3 調査内容

3-(1) 東北北海道の地方空港と周辺主要観光地等との2次交通の現状調査



- 東北北海道の5空港について、就航路線・利用者数や2次交通（運行形態・回数等）の実態を、GTFS等のデータから整理する。また、GISを活用して交通網やアクセス性を可視化し、利便性の課題や改善検討の論点を抽出する。

3-(2) 東北北海道の地方空港を利用した旅行者の移動実態・ニーズ調査等



- 女満別・とち帯広・旭川の3空港利用者を対象にWEBアンケートを実施し、2次交通の利用実態やニーズを把握する。結果を多角的に分析し、空港別の課題整理と改善施策の方向性を示すとともに、海外居住者調査によりインバウンドニーズも補完する。

3-(3) 地方空港からの2次交通整備等に係る先進事例調査



- 東北北海道と類似条件の国内外空港を対象に、2次交通の先進事例（運行形態、関係機関との連携等）を調査する。得られた知見を基に、とち帯広空港・女満別空港に適用可能な持続的交通施策の方向性を整理する。

3-(4) 東北北海道の地方空港から観光地へのアクセス改善方策の検討



- 本調査で対象とする東北北海道における地方空港として、とち帯広空港及び女満別空港を選定し、各空港からの2次交通の利便性向上策について勉強会を立ち上げ、それぞれの空港周辺におけるアクセス改善方策を検討する。

第2章 東北北海道の地方空港と周辺主要観光地等との2次交通の現状調査

2-1 調査実施概要

1-(1) 調査目的

- 東北北海道の地方空港における2次交通の運行状況及び多言語対応等の状況を把握することを目的に、現状調査を実施する。

1-(2) 調査対象空港

- 釧路空港、女満別空港、根室中標津空港、とかち帯広空港、オホーツク紋別空港の5空港を対象に現状調査を実施した。

1-(3) 調査方法

- インターネットを通じた調査を実施した。

1-(4) 調査内容

- 調査内容については、下表に整理する項目を中心に現状調査を実施した。

表2-1 各種データ調査収集内容

区分	調査項目	想定する収集データ	想定される収集方法
空港概要	基本情報	空港名称/立地状況/空港種別/施設管理者/就航路線 等	各空港HP/空港管理状況調書 等
	利用状況	利用者数/月別利用者数	空港管理状況調書/旅客動態調査 等
2次交通	運行情報	運行主体/運行区間/交通モード/運行回数/運賃/所要時間 等	各交通事業者HP/各自治体HP/GTFS-JP 等
	接続状況	航空機発着地時間との乗り継ぎ時間 等	各交通事業者HP/各自治体HP/GTFS-JP 等
	サービス環境	多言語環境の有無/キャッシュレス導入状況/事前予約への対応状況 等	各交通事業者HP/各自治体HP 等
	環境	多言語環境の有無/キャッシュレス導入状況/事前予約への対応状況 等	各交通事業者HP/各自治体HP 等
情報提供/利用促進	サービス内容	多言語環境の有無、利用料金 等	各交通事業者HP/サービス提供事業者HP 等

2-2 現状調査結果の総括

2-(1) 空港から周辺都市・観光地へのアクセス構造

- ## 2-(2) 観光需要への対応と運行上の課題

- 一部で観光客を意識した直行便やダイヤ設定がみられるが、季節運行や少便数の場合が多い
- 観光需要への対応と交通事業者の運行効率の両立が課題となっている

2-(3) 情報提供の課題

- 交通情報が事業者ごとに分散しており、空港から目的地までの移動手段を一体的に把握しにくい
- 乗り継ぎ方法や所要時間、予約方法等を個別に確認する必要がある

2-(4) 日本人旅行者・インバウンド双方の課題

- 空港到着後に移動手段を直感的に理解しにくい構造となっている
- 多言語対応や情報提供方法にばらつきがみられる

2-(5) 総括

- 市街地へのアクセスは一定程度確保されている一方、観光地への直行性、広域周遊への対応、情報提供の一体性等に課題がみられる
- 観光周遊の促進に向けては、交通サービスの充実に加え、乗り継ぎを含めた移動全体を分かりやすく示す情報提供機能の強化が重要である



第3章 東北北海道の地方空港を利用した旅行者の移動実態・ニーズ調査等

3-1 調査実施概要

1-(1) 調査目的

- 女満別空港・とかち帯広空港・旭川空港の3空港の利用者を対象に、実際に現地に訪れている旅行者等の2次交通に関する移動実態やニーズを把握することを目的に、据置でのアンケート調査を実施する。
- また、インバウンドの観光地選択等の状況を把握することを目的に、WEBでのアンケート調査を実施する。

1-(2) 現地調査

(2)-1) 調査実施日時・場所

- 現地アンケート調査の実施日時及び場所について、以下の通り整理する。

表3-1 現地アンケート調査実施日時・場所

調査空港	調査実施日時
とかち帯広空港	令和7年10月17日（金）～令和8年2月28日（土）
旭川空港	令和7年10月7日（火）～令和8年2月28日（土）
女満別空港	令和7年10月14日（火）～令和8年2月28日（土）

(2)-2) 回答方法及び回答状況

- 現地アンケート調査の回答方法は、WEBでの回答を実施のみとした。また、回収状況について、以下の通り整理する。

表3-2 現地アンケート調査の回収状況

調査空港	回収総数	うち 道内旅行者	うち 道外旅行者	うち インバウンド
とかち帯広空港	679票	225票	336票	118票
旭川空港	348票	124票	186票	38票
女満別空港	526票	179票	308票	39票

(2)-3) 現地アンケート調査項目

- 現地アンケート調査の調査項目について、以下の通り整理する。

表3-3 現地アンケート調査項目

調査項目	調査設問
今回の旅行	個人属性/旅行期間/主な訪問地/訪問目的/空港からの移動手段/観光地を選択した理由/情報収集方法 等
2次交通	地域公共交通と連動した2次交通の需要/観光地アクセスの困難性/改善希望点 等
地方空港利用 ニーズ	交通案内の分かりにくさ/移動の不安/決済環境の不満 等

第3章 東北北海道の地方空港を利用した旅行者の移動実態・ニーズ調査等

1-(3) WEBアンケート調査

(3)-1) 調査実施日時・場所

- WEBアンケート調査の実施日時について、令和8年2月17日（火）から令和8年3月4日（水）まで実施した。

(3)-2) 回答方法及び回答状況

- WEBアンケート調査について、アイブリッジ株式会社によるアンケートサービス「FreeasyGlobal」を利用し、web上においてアメリカ、中国、台湾、韓国の各国内全域に対し調査実施した。
- 回収状況については、以下の通り整理する。

表3-4 WEBアンケート調査回収状況

対象空港	回収総数	うちアメリカ	うち中国	うち台湾	うち韓国
とちぎ帯広空港	1,600票	400票	400票	400票	400票
旭川空港	1,600票	400票	400票	400票	400票
女満別空港	1,600票	400票	400票	400票	400票

(3)-3) WEBアンケート調査項目

- WEBアンケート調査の調査項目について、以下の通り整理する。

表3-5 現地アンケート調査項目

調査項目	調査設問
東北北海道地域の認知及び訪問意向	個人属性/旅行経験/旅行形態/各空港周辺観光地の認知及び訪問意向
旅行選択要因（地域公共交通）	交通条件/交通利便性/情報提供/多言語対応/季節対応
観光魅力	季節/食/アクティビティ/景観/滞在環境/地域文化
地域の2次交通	空港連絡の交通/交通改善効果/交通選択

第3章 東北北海道の地方空港を利用した旅行者の移動実態・ニーズ調査等

1-(4) 調査結果整理

(4)-1) とかち帯広空港・旭川空港

1)-① 広域周遊需要

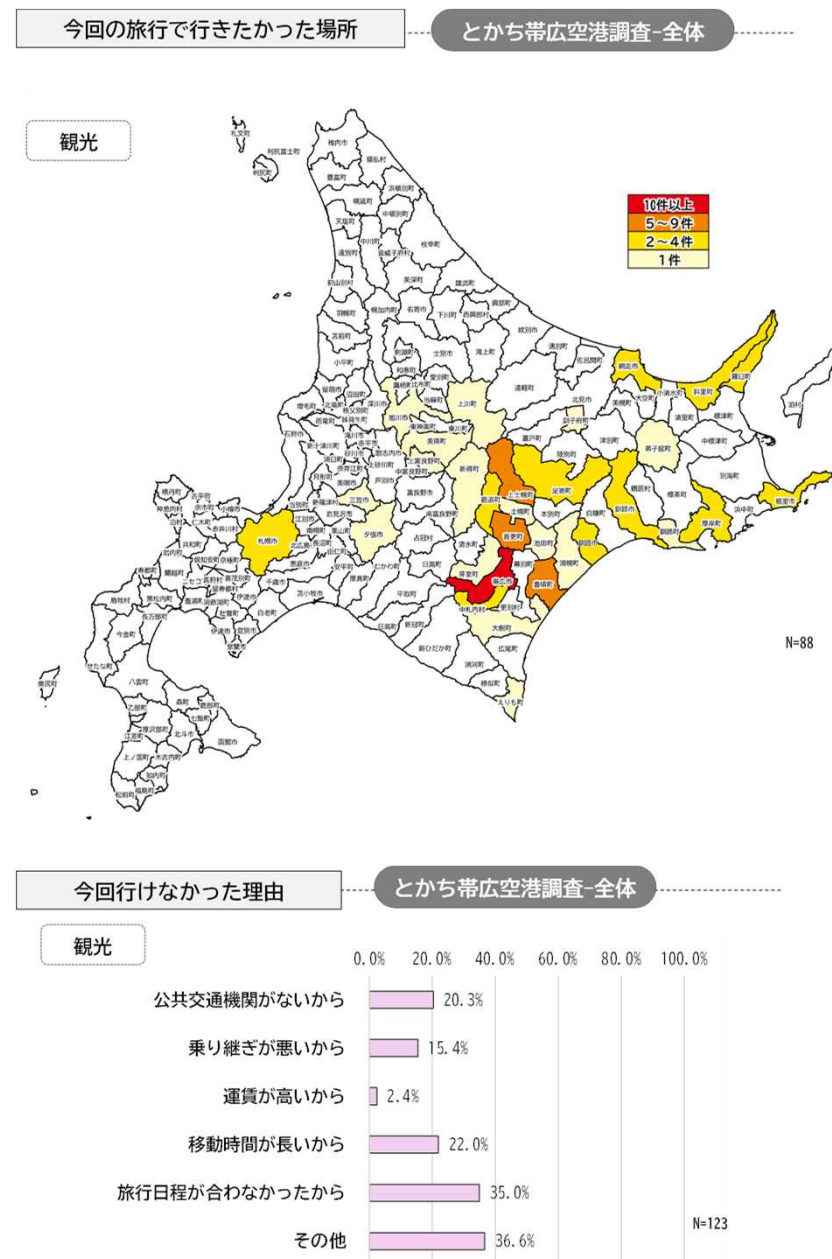
- とかち帯広空港・旭川空港利用者には、十勝管内と上川管内を組み合わせた周遊行動が一定程度みられる
- 複数空港を利用した旅行行動も確認されており、地域間を横断する移動が行われている
- 「行きたかった場所」は実際の訪問先より広範囲に分布しており、移動条件により訪問先が制約されている可能性がある

1)-② 十勝管内における周遊需要

- 帯広市を拠点として周辺自治体へ移動する域内周遊が一定程度みられる
- 複数の観光地を組み合わせた訪問が行われており、潜在的な訪問ニーズも一定程度存在している
- 一方で、移動時間や交通手段、乗り継ぎ条件が訪問範囲に影響している可能性がある

1)-③ 情報提供に関する状況

- 訪問できなかった理由として、移動時間の長さ、公共交通の不足、乗り継ぎの分かりにくさ等が挙げられている
- 観光地選択においては、移動のしやすさ、公共交通アクセス、移動情報の分かりやすさ等が重視されている
- 特に外国人旅行者では、多言語対応や分かりやすい情報提供の重要性が高い傾向がみられる



第3章 東北北海道の地方空港を利用した旅行者の移動実態・ニーズ調査等

1-(4) 調査結果整理

(4)-2) 女満別空港

2)-① 広域周遊需要

- 女満別空港利用者は、オホーツク管内を中心としつつ、釧路・根室管内を含めた道東エリア内での広域的な周遊行動が一定程度みられる
- 複数空港の併用は限定的であるものの、地域間を横断する移動や広域的な訪問意向が確認される
- 一方で、広域移動における公共交通の利用は限定的であり、レンタカーへの依存が大きい

2)-② 知床方面及び地域内周遊需要

- 網走市を起点として斜里町や知床方面、北見市等への域内周遊が一定程度みられる
- 複数自治体を組み合わせた訪問や潜在的な訪問意向も確認される
- 一方で、移動時間の長さや交通手段、乗り継ぎ条件が訪問範囲に影響している可能性がある

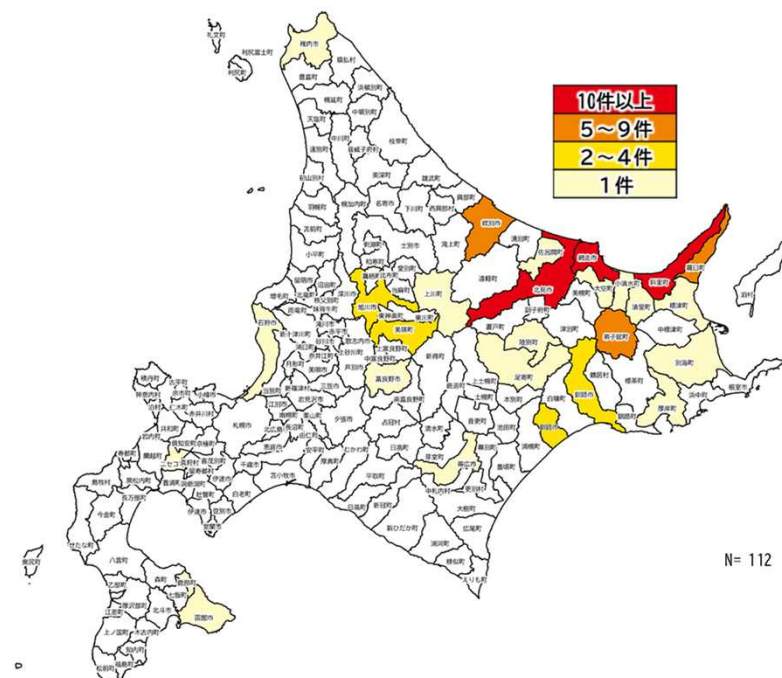
2)-③ 情報提供に関する状況

- 訪問できなかった理由として、移動時間の長さ、公共交通の不足、乗り継ぎの分かりにくさ等が挙げられている
- 観光地選択では、移動のしやすさや移動情報の分かりやすさが重視されている
- 知床エアポートライナー等の交通手段は存在するものの、認知不足や利用方法の分かりにくさが課題となっている

今回の旅行で行きたかった場所

女満別空港調査-全体

観光



今回行けなかった理由

女満別空港調査-全体

観光



第4章 地方空港からの2次交通整備等に係る先進事例調査

4-1 調査実施概要

1-(1) 調査目的

- 東北北海道の地方空港における2次交通のあり方検討にあたり、道外事例における2次交通の導入・改善に関する先進的な取組事例を収集する。

1-(2) 調査対象

- コンセッション方式による運営される国内空港を対象とする。

1-(3) 調査方法

- インターネットを通じた調査を実施
- 必要に応じて関係機関へのヒアリング調査を実施

1-(4) 調査内容

- 調査内容については、下表に整理する項目を中心に現状調査を実施した。

表4-1 各種データ調査収集内容

調査項目		調査内容
空港概要		旅客規模/就航路線 等
2次交通	運行概要	実施主体/運行区間/利用対象者/運行便数 等
	利用方法	利用方法 等

表4-2 先進事例調査結果一例（広島空港）

空港概要		旅客規模	2,869千人（2024年度実績）
		就航路線	【国内線】 新千歳空港/仙台空港/羽田国際空港/ 成田国際空港/那覇空港 【国際線】 ソウル/清州/上海/台北/大連/北京/香港/ バンコク/ハノイ
2次交通の 運行概要	運行種別		バス/乗合タクシー/レンタカー
	バス	実施主体	5社
		運行区間	8路線
		利用対象者	制限無し
		利用方法	乗車券、ICカード

2次交通の 運行概要	乗合 タクシー	実施主体	4社
		運行区間	5路線
		利用対象者	制限無し
		利用方法	現金、クレジットカード
	レンタカー	備考	●福山駅までの乗合タクシーのみ、バスとの競合区間を運行 ※令和7年度国土交通省補助事業「共創モデル実証運行事業」にて実証実験を踏まえ、令和8年2月から本格運行を開始
		実施主体	7社

第4章 地方空港からの2次交通整備等に係る先進事例調査

4-2 現地調査の結果

- 既存交通と競合関係にありながら、共存関係を構築している広島空港の乗合タクシーについて、現地調査を実施した。その結果を以下に整理する。

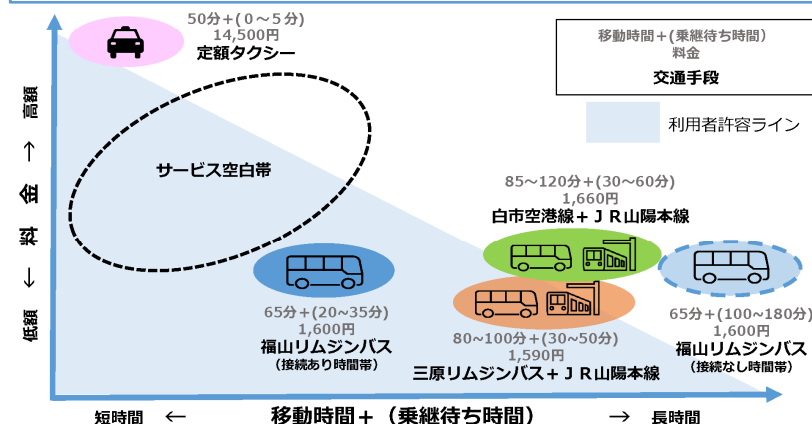
表4-3 現地調査結果

現地調査実施日時	令和8年2月12日（木） 13：30～
先方対応者	広島国際空港株式会社 長尾部長、中川シニアマネージャー、 広島県庁 空港振興課 杉原様
当方参加者	北海道運輸局 山崎次長、中野専門官、佐々木専門官、 日本データサービス株式会社 東本取締役、斉藤課長、高田主任技師
現地調査項目	リムジンバスと乗合タクシー（福山エアポートライナー）の利用者属性/ 他交通（定額タクシー等）への影響把握/利用者数の変化（リムジンバスとライナー合算）/需要検討に用いたデータ・モデル/需要予測と実績の乖離要因（認知・プロモーション）/リムジンバス減便の背景、事業者判断、路線別の濃淡/運行事業者（アサヒタクシー）の位置づけ/運行データの収集・分析と役割分担（行政・事業者・空港運営）/ルート・停車地（福山西部取り込み、所要時間短縮）/県とHIAPの役割、自治体の関与のされ方/空港経営（非航空系収入）と駐車場料金/新幹線との競合認識（広島～東京等）

- 交通手段の追加だけでなく、既存交通との役割分担を踏まえた交通手段の組み合わせ、需要把握や効果検証を含めた取組が重要である。
- 空港運営会社、自治体、交通事業者が連携し、情報提供やプロモーションも含めて一体的に取組を進める体制の構築が必要である。
- 東北北海道においても、交通手段の組み合わせと関係者連携を含めた総合的な仕組みとして整理することが重要である。

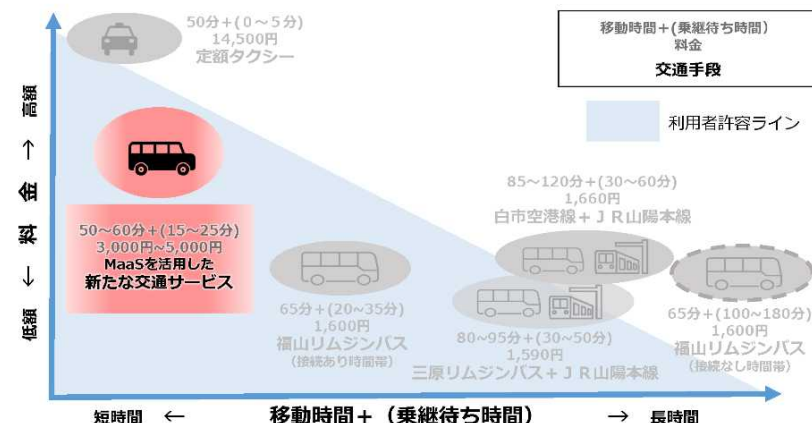
3 空港二次交通サービス（福山方面）の2軸分析

- 現状における福山方面の空港二次交通サービスに関しては、福山リムジンバス（接続あり時間帯）を除いては、定額タクシーによる高額だが短時間で移動できるサービスと、JR駅経由による低額だが長時間の移動を余儀なくされるサービスとに、2極化している。
- 福山方面の持続可能な空港二次交通サービスの構築に向けては、この2極の間のサービス空白帯を埋める、利用者許容ラインを満たす、やや高額だが短時間で移動できる新たな交通サービスが必要である。



4 2軸分析による新たな交通サービスのカバー状況

- 2軸分析結果に基づき、サービス空白帯の利用者許容ライン内に対応する新たな交通サービスを開設することで、福山方面の空港二次交通サービスの隙間をカバー。
- 新たな交通サービスを開設により、福山方面の空港二次交通において、多様なサービスを提供することが可能となり、これまで取りこぼしていた需要を再び取り込み、もって広島空港の利用促進につなげる。



第5章 東北海道の地方空港から観光地へのアクセス改善方策の検討

5-1 勉強会開催の目的

- 本調査では、東北海道の地方空港から観光地へのアクセス改善方策の検討にあたり、「とかち帯広空港2次交通利便性向上勉強会」及び「女満別空港2次交通利便性向上勉強会」の2つの勉強会を立ち上げ、モデルケースとしてアクセス改善方策の検討を行った。

【とかち帯広空港勉強会のメンバー及び役割】

メンバー	北海学園大学 北海道エアポート（株） 十勝バス（株）・北海道拓殖バス（株） （公社）北海道観光機構 十勝観光連盟 （一社）帯広観光コンベンション協会 （一社）音更町十勝川温泉観光協会 北海道十勝総合振興局 帯広市
役割	帯広空港離発着のインバウンド需要等の十勝管内及び道内波及に向けた2次交通利便性向上策を検討

【女満別空港勉強会のメンバー及び役割】

メンバー	北海学園大学 北海道エアポート（株） 網走バス（株）・斜里バス（株）・阿寒バス（株） （公社）北海道観光機構 （一社）ひがし北海道自然美への道DMO （一社）網走市観光協会 知床斜里町観光協会 （一社）知床しゃり 網走市・斜里町
役割	知床地域における観光需要のさらなる回復に向けた2次交通利便性向上策を検討

【勉強会開催概要】

開催時期		議題	協議の論点
第1回	帯 広：9月16日 女満別：9月26日	● 東北海道の空港と観光地を結ぶ公共交通の利便性向上策の検討について ● 調査の進め方について	● 調査分析の「方向性」について ● 2次交通利便性向上策の「方向性」について ● 各主体の取り組み共有
第2回	帯 広：12月9日 女満別：12月23日	● アンケート調査結果（速報）について ● 調査結果を踏まえた2次交通利便性向上の取組の方向性（たたき台）について	【とかち帯広空港勉強会】 ● 十勝-旭川間における広域的な移動利便性向上策の検討 【女満別空港勉強会】 ● 年間を通じた観光客等が地域交通で知床地域を含む広域的な移動ができる環境整備の検討
第3回	帯 広：3月11日 女満別：3月10日	● アンケート調査結果（中間とりまとめ）について ● 第2回勉強会を踏まえた次年度に向けた取組案について	● 「勉強会意見」の取りまとめ ● 「次年度以降の動き」を整理

第5章 東北北海道の地方空港から観光地へのアクセス改善方策の検討

5-2 アンケート調査結果から把握された仮説及び方向性

- 勉強会において、アンケート調査結果から把握された以下の仮説及び方向性について、議論を通じて検証を行った。

【とち帯広空港勉強会における仮説及び方向性】

仮説①：十勝管内と上川管内を結ぶ2地域間の広域周遊の需要は存在し、空港間連携等により観光産業の成長に繋がる

目指すべき方向性①

十勝管内と上川管内の移動に関し一定の需要は確認され、帯広空港⇄旭川空港間の2次交通の機能強化（周知面含む）が示唆されたため、帯広空港⇄旭川空港間等における自由度の高い旅程の実現を目指す

仮説②：十勝を核とした周辺管内への観光周遊需要は高く、広域移動を支える交通環境の整備によりさらなる需要喚起に繋がる

目指すべき方向性②

十勝管内の広域観光移動の需要は調査結果から一定の需要があることが分かり、広域観光移動を実現するさらなるバスパックあるいはタクシープランの検討が示唆されたため、十勝管内における広域観光移動の実現を目指す

仮説③：交通・アクセス情報の不足は広域観光移動の障壁となっており、情報発信強化により観光周遊需要の拡大に繋がる

目指すべき方向性③

韓国便が定期運航となった背景を踏まえ、日本人だけではなく、外国人観光客が旅行先として十勝管内を選択していくたためには、交通・アクセス情報のさらなる情報発信や多言語化の推進を図ることが示唆されたため、十勝から道内各地への移動利便性（情報提供機能強化を含む）の向上を目指す

【女満別空港勉強会における仮説及び方向性】

仮説①：女満別空港あるいは網走市から知床・ウトロまでの直通で移動できる公共交通の通年確保により、季節に関わらず観光客を誘客できることで、知床エアポートライナーのさらなる観光需要喚起に繋がる

目指すべき方向性①

女満別空港・網走市等を起点に知床・ウトロまで直通で移動できる公共交通の通年確保を目指す
※地域の魅力発信の継続並びに交通・アクセス情報の発信をしていくことを前提

仮説②：オホーツク管内と釧路・根室管内を移動する広域周遊の需要は存在し、地域間を結ぶ公共交通の確保や空港間連携等により観光産業の成長に繋がる

目指すべき方向性②

網走市・斜里町等を起点に弟子屈（摩周・屈斜路）方面まで直通で移動できる公共交通の確保を目指す
※地域の魅力発信の継続並びに交通・アクセス情報の発信をしていくことを前提

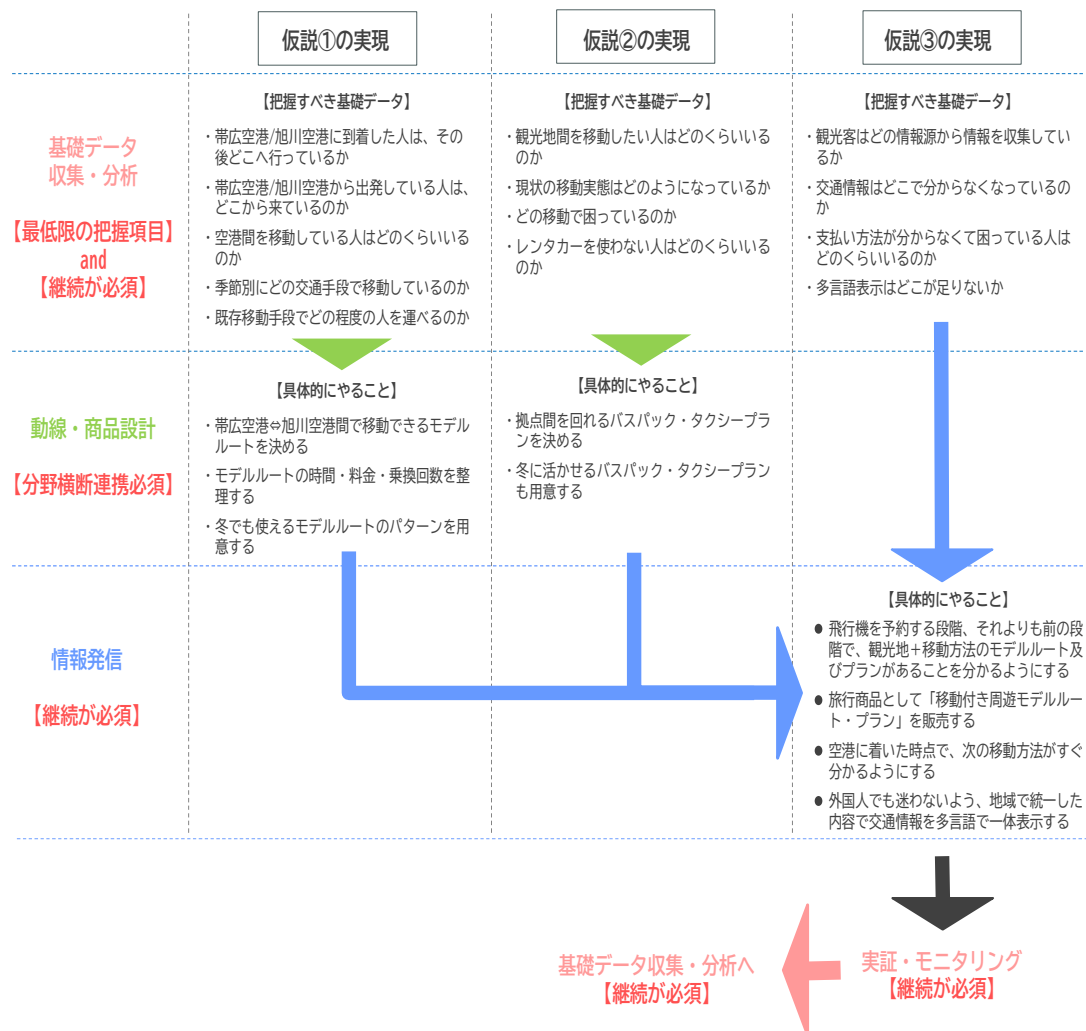
目指すべき方向性③

交通・アクセス情報のさらなる発信等により、女満別空港⇄たんちょう釧路空港間等における自由度の高い旅程の実現を目指す

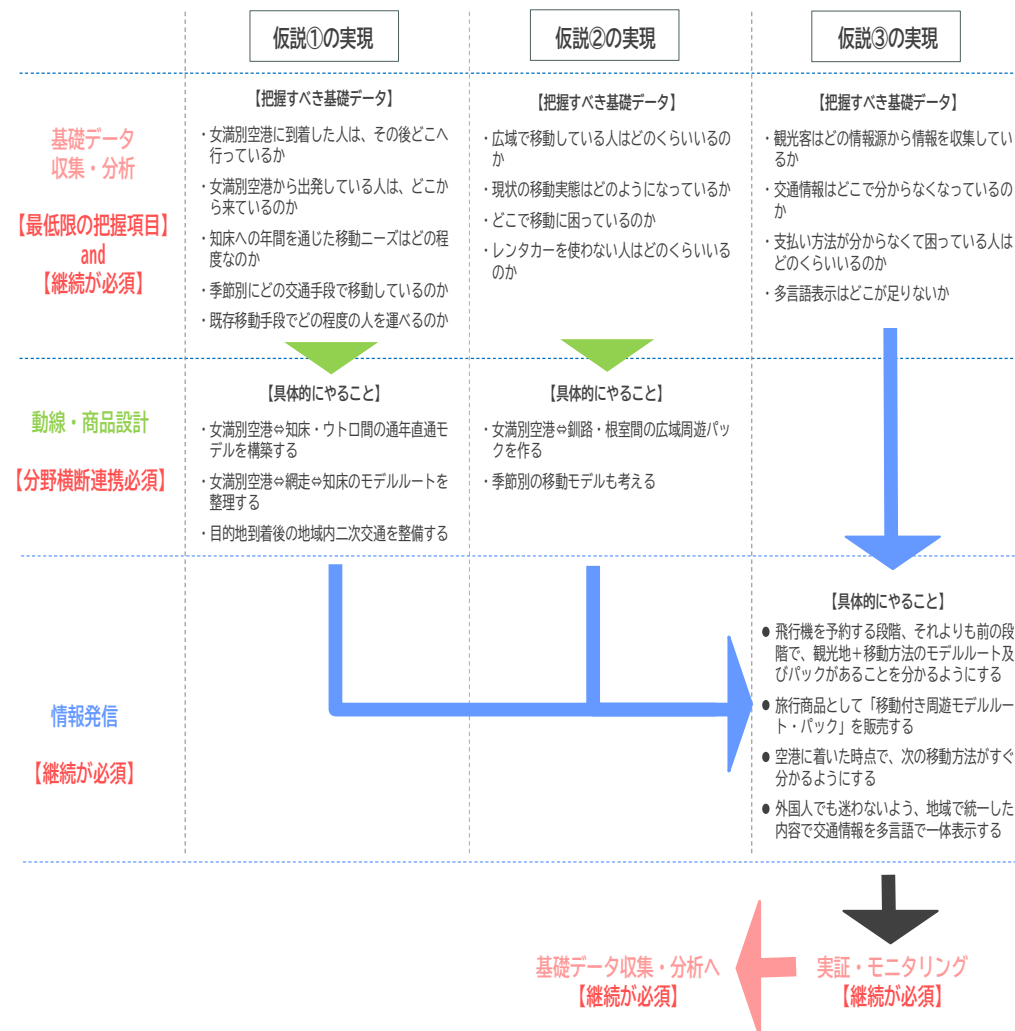
第5章 東北北海道の地方空港から観光地へのアクセス改善方策の検討

5-3 各仮説を実現させる詳細な取組内容の整理

【とち帯広空港勉強会における取組内容の整理】



【女満別空港勉強会における取組内容の整理】



第6章 本調査の取りまとめ

5-1 2次交通整備の今後の方向性

- 空港から中心市街地へのアクセスは一定程度確保されている一方で、観光地への移動や地域間移動は鉄道やバスの乗り継ぎを前提とする場合が多く、移動時間や接続条件が行程の制約となりやすい。また、地方空港周辺では観光地が広域に分布しており、観光地間の移動に時間を要する場合が多い。
- アンケートでは、訪問できなかった理由として「移動時間が長い」「乗り継ぎが分かりにくい」「公共交通機関がない」といった回答がみられ、移動条件が訪問先の選択に関係していることがうかがえる。
- 移動手段はレンタカー利用が多く自動車への依存がみられる一方で、バスや鉄道など公共交通も一定程度利用されており、複数の移動手段を組み合わせた移動が行われている。また、公共交通は運行されている場合でも認知に差があり、交通手段の存在が十分に認識されていない場合がある。
- 観光地選択にあたっては、空港から観光地までの移動のしやすさや移動情報の分かりやすさ、公共交通によるアクセス性が重視されており、特に外国人旅行者では多言語での情報提供や移動手段の分かりやすさへの関心が高い。
- 行きたかった観光地は実際の訪問先より広い範囲に分布しており、旅行者の関心は複数地域に及んでいる。一方で、観光地間の移動方法や所要時間、移動の組み合わせ方に関する情報が十分に共有されていない場合がある。

❑ 2次交通の検討にあたっては、空港から観光地までのアクセスに加え、観光地間の移動も含めた移動環境の整理、乗り継ぎを含めた移動の分かりやすさの向上、情報提供の充実、多様な移動手段の組み合わせを踏まえた移動環境の構築が必要である。

❑ 交通事業者、観光関係者、自治体、空港運営関係者等が連携し、観光地間の移動方法や所要時間を含めた周遊ルートの整理や情報発信を行うなど、関係主体が役割分担のもとで継続的に検討を進める体制を構築することが重要である。

